

平成 28 年度

事 業 報 告 書

社会福祉法人 光耀会

平成 28 年度

社会福祉法人 光 耀 会

事 業 報 告

総 括

平成 30 年度には大幅な見直しが行われ、厚生労働省及び財務省の改正内容は事業者にとって相当厳しくなる模様であります。平成 30 年の介護保険、障害福祉の単価見直しの改正は、事業者にとって相当打撃を受けるものとなりそうであるため、法人としても地に足をつけた運営と法整備を見直すのが急務であります。今後単価の改正については、各事業の中身の「できる、できない」による加算、減算方式が顕著となり、きめ細かな福祉サービスを支援する職員の確保がより重要となるため、各事業間での格差が出来ることとなる。

昨年末に児童施設において 2 名の退職者があり、相当の減算となった。また、各事業による個別支援計画等きめの細かな支援計画とその実施が問われ、サービス管理責任者の資質とその事業への熱意（利用者への支援）が大いに問われるところとなった。各事業所を振り返れば、事業目的に沿った事業展開をしている事業所とそうでない事業所の格差は著しいところがあり、法人内部で事業格差が出ていた。

当初目標について検証すると、

① 老朽化施設の増改築について

沢谷荘の新築後、東山荘の新築については現施設での建て替えは困難のため、理事会の承認もいただき三田市四辻字西野々に希望の土地を手に入れることができた。購入面積も広く、将来法人の核としてまた地域との接点の場所として、そして三田市における総合福祉計画に対応のできる場所として運営できる土地を確保できた。

② 福祉人材確保の促進について

福祉の人材確保については、全国の社会福祉施設において介護職を含め不足している人材の処遇の改善、働きやすい環境等就業規則を見直ししながら改善を図りたい。

③ 光耀会クラブの増改築

光耀会クラブの増改築については計画がすでに出来上がりつつあり、今後のグループホーム運営に果たす役割は大きい。現在使用している木造住宅も相当老朽化しており、早急な見直しを迫られている。従い、道場町塩田にある当法人所有地に入居者 20 名弱のホーム建設が期待されている。

④ 事業運営の明確化、財務規律の強化

事業運営、財務規律の明確化については、新社会福祉法人制度改革が昨年 12 月より実施され、法人のガバナンスを中心に平成 29 年度以降、制度改革を乗り切りたい。また地域との交流についてはすでに数年前より実施しており、地域の核としての施設運営を行っている。今後は地域の老人や障害児・者との交流の場を企画し、真に福祉の核施設としての役割を果たすべく努力を行っていく所存であります。まさに地域交流、地域の共生はこれから地域福祉の中心となります。

⑤ 内部留保について

内部留保については、東山荘の新築が急務となっていることから、新築計画の中で現在内部留保としての繰越金については、新築計画及びグループホームの新築計画の自己資金としての準備金としている。今後、国庫補助の多くをあまり見込めない状況下における将来計画を見直したいと考えている。今年度においてある程度の繰越金が発生したため、決算前において建設資金として積み上げることとした。

以上から本年度の目標達成率は約 70 パーセントの計画達成となりました。平成 29 年度は 30 年度改正に向け全事業所を一から見直し、30 年度改正に対応していく所存であります。

【障害者支援施設 沢谷荘】

総 括

引っ越しから早3年が経過しました。新しい建物にも十分に慣れ、日々の生活を過ごされています。28年度も利用者の皆さんのが落ち着いた環境の中、健康で楽しい生活を送っていただけることを最優先の目標に掲げ、職員一同取り組みました。

最も楽しみにされている外出については、日帰り旅行を始め、利用者の皆さんからの希望を基にオプション外出等を計画し、実施しました。また、散髪や買い物等へも定期的に出かけ、可能な範囲で公共の交通機関を利用していただきました。午前は個々に応じたグループに参加してもらい、入浴日以外の午後は利用者の方々と散歩やドライブ等、ゆっくり一緒に過ごせる時間を設けました。

夜間は自室でDVDや音楽鑑賞、塗り絵や編み物等のんびりと趣味に取り組まれていました。

健康面においては、手洗いやうがいの励行、手摺やドアノブなどの消毒を実施することで、ノロウィルスやインフルエンザの発症や拡散を抑えるよう努めました。しかし、転倒などによる怪我は年々増加傾向にあり、職員の見守り体制の強化、歩行やリハビリテーションによる身体機能の維持が継続しての課題として残りました。

職員教育においては高齢化、高介護化が進む中で必要とされる介護技術や知識の向上、障害者虐待防止法等の研修に参加してもらうことで支援の振り返りを行いました。

これからも、入所されている利用者の皆さんのが安心して生活できるような支援を行う事は基より、地域で生活される方のサポートとして短期入所の受け入れを適宜おこない、地域における社会資源の一つとして入所施設の役割を十分に果たしていきたいと考えています。

1. 主要行事と地域交流

[主要行事]

行事名	実施日	場 所	備考
リフレッシュ外出	4／1	カラオケ ボーリング他	
のじぎくスポーツ大会	5／21	県立三木総合防災公園	
日帰り旅行（姫路方面）	7／5	姫路セントラルパーク	
七夕会	7／7	2F 多目的ホール	
日帰り旅行	7／20	京都動物園	
ボクシング観戦	8／20	駒ヶ谷公園体育館	
一泊旅行	9／6～7	久美浜	
一泊旅行	9／27～28	淡路島	
一泊旅行	10／10～11	大阪・滋賀方面	
クリスマス会	12／17	2F 多目的ホール	
初詣	正月	近隣神社	
どんど	1／14	敷地内農場	
節分	2／2	2F 多目的ホール	
もちつき会	2／18	2F 多目的ホール	
ポップサーカス	3／28	姫路市キャスティ 21	

[地域交流行事]

行事名	実施日	場 所	備考
スマイルピック	4／22	城山運動公園	
音・きずなコンサート	6／12	あまりホール	
東山荘夏祭り	8／3	東山荘	
ゆりのき台フェスティバル	10／9	ゆりのき台公園	
感神社秋祭り	10／10	感神社	
東山荘楽祭	11／3	東山荘	
三田市民文化祭	11／3～5	郷の音ホール	
広野地区ふれあい活動	11／15	2F 多目的ホール	
狂言鑑賞会	11／25	郷の音ホール	
障害者週間啓発活動	12／10	三田市総合福祉保健センター	

2. 事業

生活介護

午前は5グループに分かれて公園清掃や農作業やりハビリ等、できる限り利用者の意向や特性に合った内容のサービスが提供できるよう、また、午後は入浴や音楽療法、習字、ドライブなどの提供により、楽しい時間が過ごせるように配慮した。高齢や身体機能の低下などにより介助度が増している状況で、如何に利用者のニーズに対応できるかが課題になっている。

施設入所支援

平成26年5月に新築施設に移転し、個室の環境を提供できたことが最も大きなメリットだった。安全面での見回りは支援員にとって比重は大きくなつたが、対人的トラブルが減少し、落ち着いた環境が整ったと思う。

【年齢別状況】

H29.4.1現在

	~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~89
男性	0	0	4	7	10	3	0	2
女性	0	0	0	0	6	5	2	1
合計	0	0	4	7	16	8	2	3

平均年齢：56歳10ヶ月

【障害支援区分状況】

H29.4.1現在

支援区分	3	4	5	6	合計
男 性	0	7	10	9	26
女 性	1	3	2	8	14
合 計	1	10	12	17	40

平均支援区分：5.1

2. 消防訓練

実施月・日	訓練種別
平成28年 4月21日	避難訓練
5月12日	総合訓練
6月16日	避難訓練 消防署員立ち合い（消火・通報訓練）
7月26日	避難訓練
8月18日	避難訓練

9月22日	避難訓練
10月18日	総合訓練
11月29日	避難訓練
12月27日	総合訓練
平成29年 1月26日	避難訓練
2月28日	避難訓練
3月14日	避難訓練 消防署員立ち合い（消火・通報訓練）

〔定期点検〕 平成28年 5月18日 異常なし
 平成28年11月24日〃

3. 帰省状況

春期帰宅	期 間	4月29日～5月15日
	人 数	7名（9名）
	延日数	38日（52日）
夏期帰宅	期 間	8月14日～8月28日
	人 数	9名（9名）
	延日数	47日（51日）
冬期帰宅	期 間	12月25日～1月8日
	人 数	12名（10名）
	延日数	68日（59日）

※（ ）内は27年度の状況

4. 保健支援

ノロウィルスとインフルエンザの感染につき、今年度も引き続き予防策として、12月から3月末まで毎日、次亜塩素系漂白剤によるトイレ・手すりの消毒、ジエットタオルによる手指の乾燥を実施。また、棟内5か所に殺菌作用があるアロマオイル（芳香剤）を使用した効果も含め、感冒やインフルエンザも蔓延することがなかった。

（1）特定検診

協力医療機関：平島病院

実施日	検査項目	結果
6月23日	胸部X P・心電図・血圧・採血 採尿・医師の聴診・身長・体重測定 腫瘍マーカー ※ 40歳以上	再検査 10名 経過観察 10名
11月22日	胸部X P・心電図・血圧・採血 採尿・医師の聴診・身長・体重測定	再検査 9名 経過観察 9名

(2) インフルエンザ予防接種

11月22日実施 利用者50名 (短期入所3名)

(3) 歯科検診

7月14日実施 利用者50名 (短期入所3名)

(4) 定期健康相談

精神科嘱託医(有馬高原病院)による往診。毎月第1火曜日実施。

(5) 入院状況

性別	入院理由	入院期間	入院先
女性	肺炎	8／8～8／22	平島病院
女性	硬膜下水腫	8／12～29年3／31	有馬高原病院
女性	不眠 不穏	10／25～29年1／23	有馬高原病院
男性	てんかん発作	2／15～2／28	有馬高原病院

6. 短期入所(ショートステイ)

延日数 1, 661日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(回)
三田市	80	87	91	93	95	89	101	116	101	65	58	68	1044
川西市												11	11
神戸市	30	31	30	31	30	30	31	30	31	31	28	31	364
三木市	10	7	13	13	6	9	6	6	9	9	15	6	109
篠山市	2	9	9	8	9	14	12	16	11	15	11	11	127
猪名川町		2		2			2						6
短期合計	122	136	143	147	140	142	152	168	152	120	112	127	1,661

(平成27年度 1,521日)

短期入所（日中一時支援）

延日数 524日

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(日)
三田市	42	45	49	44	46	42	45	43	45	35	39	48	523
篠山市				1									1
合 計	42	45	49	45	46	42	45	43	45	35	39	48	524

(平成 27 度 520 日)

7. 職員研修

研修名	期日	場所	参加者
平成 28 年度知的障害者援助専門員養成通信教育	通年		支援員 1 名
知的障害のある人の金銭管理	5／25	三田市総合福祉保健センター	支援員 1 名
三田給食施設協議会	6／9	〃	栄養士 1 名
PWS 支援者ネットワーク	6／12	千里サイエンスセンター	支援員 1 名
阪神かぞくねっと研修会	6／22	神戸市教育会館大ホール	支援員 1 名
てんかん基礎講座	7／21	大阪商工会議所	支援員 1 名
知的障害者関係施設および手をつなぐ育成会合同研修会	8／20	広野市民センター	管理者 支援員 4 名
社会福祉夏季大学聴講	9／7	神戸芸術センター 芸術劇場	支援員 1 名
平成 28 年福祉の集い	9／29	神戸メリケンパーク オリエンタルホテル	支援員 1 名
三田給食施設協議会	11／8	京都ケータリング株式会社本社	栄養士 1 名
三田給食施設協議会	12／15	兵庫県三田庁舎 4 階大会議室	栄養士 1 名
第 5 回障害者支援施設部会 全国大会	1／30～ 1／31	新横浜プリンスホテル	支援員 1 名
第 53 回近畿地区知的障害 関係職員研修会	2／16～ 2／17	草津エストピアホテル	支援員 1 名
社会福祉法人会計実務者決算 講座	2／24	大阪コングレコン	事務員 1 名
虐待防止体制の整備	2／26	沢谷荘作業棟	管理者 支援員 5 名

8. ケース会議

毎月定例で年12回開催。

内容：支援内容の見直しやケース検討、行事計画及び反省等について検討した。

9. 苦情解決

- (1) 第三者委員の岩脇氏に施設の行事に参加していただき、利用者の普段の生活や様子を見ていただいたことで、毎月の面談に生かされている。
- (2) 年2回（10月と3月）岩脇氏、苦情解決責任者、苦情受付担当で話し合いの場を設けた。その中で、利用者や保護者、地域の方からの苦情や要望を共有し、反省や今後の課題について検討した。

10. その他の事業報告

(1) 作業収入

①車池・学園西・学園東公園清掃	ゴミ収集、トイレ清掃（学園西公園清掃はゴミ拾いのみ）	収入 594,000円
②古紙回収 三田市の委託（三田市内）		収入 265,000円

(2) 実習生受け入れ

①「介護等体験」実習（主催：兵庫県社会福祉協議会）

関西学院大学	5/16～5/20
	6/20～6/24（2名）
	9/5～9/9
	9/26～9/30（2名）
	10/17～10/21
	11/21～11/25
	12/19～12/23
	1/30～2/3
神戸学院大学	5/16～5/20
甲南大学	5/23～5/27
京都造形芸術大学	5/30～6/3
神戸海星女子学院大学	5/30～6/3

立命館大学	9 / 5 ~ 9 / 9
神戸親和女子大学	9 / 12 ~ 9 / 16
	12 / 5 ~ 12 / 9
佛教大学	11 / 21 ~ 11 / 25
武庫川女子大学	11 / 28 ~ 12 / 2
	12 / 12 ~ 12 / 16
	計 20名

②保育実習

湊川短期大学	2 / 9 ~ 2 / 19 (2名)
	2 / 23 ~ 3 / 5 (2名)
	3 / 9 ~ 3 / 19 (2名)
神戸常盤大学	8 / 16 ~ 8 / 26 (2名) 計 8名

(3) 利用者の動態

[入所]	平成29年 1月 1日	1名
[退所]	平成29年 2月 8日 死去	1名

【障害者支援施設 東山荘】

総 括

念願であった新築用地を購入し、新たな施設建設に向けて期待が高まる。東山荘だけでなく、広い土地を法人としてどのように運用していくのか、他事業所の運営状況を吟味し、地域のニーズをしっかりと踏まえて、将来計画をたてていかなければならない。

人事労務面では、職員の離職もなく安定した人員配置での運営ができている。自身の資格を活かし、法人の事業運営に貢献するという観点から、ホームヘルプ事業や有償運送事業などのサービスに関する意識の向上、さらなる人員を確保することが急務である。また、監督職を中心に次の世代を担う職員の育成を行い、将来にわたり法人の安定した事業運営にかかせない人材の確保も課題であるため、階層ごとの研修など、法人内研修の実施が必要である。職員の定着には、働きやすい環境を整えることも大切な要素であり、職員と相談しながら見直しや整備を継続して取り組んでいきたい。

支援業務においては、個別支援を重点においた対応として担当職員とマンツーマンでの時間を設け、個々の利用者のニーズに応じた支援を実施した。ヒヤリハット・アクシデントにおいては夜間から早朝にかけて、日課への移動時間における転倒報告が圧倒的に多く、怪我に至るケースもみられた。大きな事案としては、これまで見られなかった夜間の無断外莊が発生したため、隨時見守りの強化や安全面での見直しを行って再発防止に努めてきた。また、認知症を患われた利用者の方の終末期のケアについては、ご家族の思いを受け、協力医療機関の医師との連携により往診による診察において指示を仰ぎ、点滴などの医療処置を受けながら、職員が一丸となり悔いのない支援に取り組んだ。

1. 平成28年度の主要行事と地域交流

【主要行事】

行 事 名	実 施 日	場 所	備 考
お花見	4月5日	有馬富士公園	利用者 52名 職 員 27名 保護者 2名
上野ヶ丘さつき会 学園祭	5月15日	上野丘学園	利用者 2名 職 員 1名
潮干狩り	6月3日	新舞子潮干狩り場	利用者 10名 職 員 6名
音・きずなコンサート	6月12日	神戸市北区 ありまホール	利用者 5名 職 員 2名
のじぎくスポーツ大会	5月28日	県立 三木総合防災公園	利用者 6名 職 員 2名
七夕会	7月7日	Dルーム	
海水浴	7月20日	淡路島・東浦海水浴場	利用者 11名 職 員 7名
納涼大会	8月3日	施設内	利用者 47名 保護者 4名 在宅利用者 12名 地域住民ボランティア 2名 本庄地区民生委員 8名 子どもボランティア 4名 社協職員 2名 沢谷荘 7名 こぶしの園 10名 春日学園 6名 来賓 2名
高校野球観戦	8月9日	阪神甲子園球場	利用者 4名 職 員 2名
宿泊旅行①	9月14日～15日	福岡 オープンバスにて市内観光	利用者 9名 保護者 5名

		大宰府天満宮 柳川下り	職 員 6名
宿泊旅行②	9月29日～30日	愛知 名古屋水族館 名古屋城	利用者 14名 保護者 10名 職 員 9名
宿泊旅行③	10月4日～5日	フルーツフラワーパーク 須磨水族館	利用者 4名 光耀会クラブ 3名 職 員 6名
日帰り外出	10月12日	神戸動物王国	利用者 13名 保護者 10名 職 員 7名
日帰り外出 (お食事会)	10月13日	金仙寺湖畔 三田屋	利用者 6名 職 員 7名
荘楽祭	11月1日	有馬富士 共生センター 東山荘	利用者 保護者 本庄地区民生委員 三田西陵高校 生徒会 こぶしの園 沢谷荘 春日学園 一般ボランティア 総数 220名
神戸ルミナリエ見学	11月30日	三宮東遊園地	利用者 6名 職 員 3名
クリスマス会	12月19日	地域交流ホーム	本庄婦人会 8名
もちつき	1月8日	施設内	
節分	2月2日	施設内	
ひなまつり会	3月3日	施設内	
高校野球観戦	3月21日	阪神甲子園球場	利用者 4名 職 員 2名

【地域交流行事】

行 事 名	実 施 日	場 所	備 考
スマイルピック	4月29日	城山公園陸上競技場	利用者 18名 職 員 8名
西陵祭	6月15日	三田西陵高校	アドバンス出演

	6月16日		利用者 10名 職 員 8名 バザー出店
広野こども ボランティアまつり	7月24日	広野市民センター	利用者 3名 職 員 2名
本庄まつり	7月30日	本庄小学校	バザー出店 利用者 1名 職 員 3名 送迎ボランティア 職 員 2名
三田まつり 踊りコンテスト バザー 花火見学	8月2日	郷の音ホール駐車場 駅前商店街 三田運送駐車場	利用者 4名 職 員 2名 利用者 2名 職 員 2名 利用者 4名 職 員 1名
高校野球観戦	8月19日	阪神甲子園球場	利用者 4名 職 員 2名
広野まつり	8月22日	広野小学校	バザー出店 利用者 3名
敬老会	9月4日	本庄小学校	利用者 2名 職 員 1名
沢谷荘秋祭り	10月23日	沢谷荘	利用者 2名 職 員 1名
市民文化祭見学	11月2日～5日	郷の音ホール	利用者 15名
狂言鑑賞会	11月25日	郷の音ホール	利用者 2名 職 員 1名
東山地区 とんど	1月11日	なかよし公園	利用者 10名 職 員 4名
西陵高校生徒会 交流会	3月8日	地域交流ホーム	利用者 20名交流
ふれあい卓球大会	3月4日	三田市総合福祉保健 センター	利用者 4名 職 員 2名

2. 各事業

施設入所支援事業

居室環境の整備から、居室の利用定員を減らすため定員減での運営を継続した。夜間から早朝にかけて自室内での転倒のケースが多く、夜勤者の増員も含め課題になっている。自活訓練ホームでの生活訓練においては、日々の調理の片付け・各居室の清掃などの役割分担に加え、夕食の買物と調理実習、ホーム内外の清掃活動を毎月1回実施した。

【年齢別状況】

H29.4.1現在

	~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80~89
男性	0	2	4	2	13	5		3
女性	0	1	3	1	5	2	2	3
合計	0	3	7	3	18	7	2	6

平均年齢：54歳

【障害支援区分状況】

H29.4.1現在

支援区分	3	4	5	6	合計
男 性	0		9	20	29
女 性	0	1	4	12	17
合 計	0	1	13	32	46

平均支援区分：5.6

生活介護事業

利用者の個々のニーズに応えるために、担当職員とマンツーマンでの時間を設け、個別の利用者のニーズに応じた支援を心がけた。身体機能の低下が課題の一つである。リハビリ時間では、個々の歩行状態や下肢状態に合わせて無理のないように取り組みを継続している。通院によるリハビリや嘱託医である整形外科の先生によるアドバイスを受けながら、機能維持に努めている。職員の専門的な知識の習得も必要である。

【主な作業と作業収入】

(1) オカパック（小袋タイプ）作業

フスマ（小麦カス）が原料の緩衝材の袋詰め作業。平成11年の1月より導入して以降、継続して行っている。軽量で扱いやすく、数の理解や迅速性等の能力に応じて取り組め、ほとんどの利用者が参加できる作業であり、利用者にも定着している。三田市内の施設・作業所への原料や材料の分配・管理・納入の調整なども行っている。

次年度は施設内においても、定期的に作業を実施することにしている。

(2) 小野公園清掃

公園内の草刈り業務を担当し、年間2回草刈りを実施した。他の事業所が清掃できない場合は、トイレ・公園内の拾いなどの清掃活動を行った。

(3) 古紙回収

三田市より委託を受け、月に1回収作業を行う

3. 消防訓練

実施月日		実施内容
H28.	5月23日	夜間避難訓練
	6月21日	避難訓練
	7月31日	避難訓練
	8月24日	夜間避難訓練
	9月14日	避難訓練
	10月16日	避難・消火訓練
	11月22日	避難・通報訓練
	12月13日	避難訓練
	1月25日	避難訓練
	2月22日	避難訓練
H29.	4月27日	総合訓練（H28.3月未実施のため）
		避難・通報訓練　　消火器配置確認

消防設備、定期点検　異常なし

平成28年 7月 4日

平成29年 1月 5日

4. 外泊状況

外泊については、利用者や保護者の自由裁量で日数は決めてもらっている。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男性	8	8	5	5	12	5	5	5	10	9	4	6	79
女性	3	2	3	3	4	2	2	3	7	3	2	6	40
合計	11	10	8	8	16	7	7	8	17	12	6	12	119

合計 119日

平成27年度実績 81日

5. 保健支援

感染症の発生はなかったが、2名の入院があった。日々の体調の変化への気づきは重要であり、早期の発見・対応は欠かせない。自ら体調不良を訴えることの困難な利用者が殆どであり、日々の体調観察に注視している。

また、転倒により骨折、手術をされることとなった。転倒報告は圧倒的に多く、移動時の介助や見守りについてはそれぞれの歩行状態により、介助の人数や介助方法が適切に行えるよう、看護師と職員間で隨時意見交換しながら対応してきた。自ら動かれて転倒に至る事が多く、見守りへの課題が多い。

(1) 入院の記録

氏名	年齢	入院期間	入院日数	病名	医療機関名
I・T	67	11月29日～12月7日	9日	腸捻転	三田市民病院
I・T	67	1月22日～2月10日	18日	腸捻転 S状結腸切除	三田市民病院
M・S	88	1月19日～2月11日	24日	左大腿骨骨折	三田市民病院

(2) 協力医療機関

【嘱託医】	福島神経科	安部整形外科
(総合病院)	三田市民病院	兵庫中央病院
(皮膚科)	つじい皮膚科	神戸中央市民病院
(眼科・脳外科)	中津クリニック	
(歯科)	大槻歯科	阪神福祉センター
(耳鼻科)	藤村耳鼻科	阪大病院
(精神系)	光風病院	豊中歯科センター
(内科・循環器科)	さわ病院	ひがしうら診療内科
	上田医院	やすおか診療内科

(3) 健康診断等の実施

実施月日	項目
H28. 5/9	利用者・職員健康診断(1回目): ハーティ21 (胸部X線・心電図・採血・血圧・検尿)
6/13	歯科検診: 大槻歯科
12/3	利用者・職員健康診断(2回目): ハーティ21 (胸部X線・心電図・採血・血圧・検尿)
10/16	インフルエンザ予防接種

※B型肝炎ワクチン予防接種: 職員に実施

6. 短期入所事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
三田市	159	173	167	176	143	149	165	161	165	157	161	166	1,942

合計 1,942 日

平成 27 年度実績 1,885 日

【日中一時支援事業】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
三田市	3 6	4 8	5 4	4 8	4 1	4 8	4 1	4 4	4 8	3 4	4 3	4 5	530
神戸市	2 4	1 4	1 6	1 4	1 6	1 6	1 4	1 3	1 6	2 4	2 4	2 4	215
川西市	1 6	8	8	1 1	1 1	9	8	7	7	1 0	1 0	9	114
伊丹市	7	7	7	7	5	6	7		5	7	7	7	72
三木市				3	1			2	3	1	3	2	15
計	8 3	7 7	8 5	8 3	7 4	7 9	7 0	6 6	7 9	7 6	8 7	8 7	946

合計 946 日

平成 27 年度実績 826 日

7. 職員研修

【主な施設外研修】

研修名	期日	場所	参加者
平成 28 年度障害福祉施設新人職員研修会	5 / 24	兵庫県社会福祉研修所	支援員 2名
マルゼン神戸営業所 ベーカリー講習会	6 / 21	神戸サンボーホール	支援員
健康経営セミナー	7 / 25	兵庫県看護協会 ハーモニーホール	支援員
平成 28 年度 全国知的障害関係施設長等会議	6 / 23 ~ 24	パシフィコ横浜	施設長
第 55 回 社会福祉夏季大学	9 / 7	神戸芸術センター芸術劇場	支援員 3名

平成28年度 三田市内知的障害者施設と手をつなぐ育成会合同研修会	8／20	広野市民センター	課長 支援員6名
サービス管理責任者研修（就労継続B型）	7／14・15	明石市民会館	支援員
サービス管理責任者研修（就労継続B型）	8／5	福祉のまちづくり研究所	支援員
平成28年度社会福祉法人 人事・労務管理研修	10／12	兵庫県のじぎく会館	課長
サービス管理責任者研修（就労継続B型）	11／17・18	福祉のまちづくり研究所	支援員
平成28年度 地域支援セミナー	11／9	新横浜国際ホテル	副主任 支援員 1名
消防訓練指導員講習会	11／14	三田市消防本部	支援員
兵庫県知的障害者施設スタッフ委員会 研修会	11／17	兵庫県福祉センター	主任
近畿地区知的障害関係施設長会議	12／2 ～3	奈良ロイヤルホテル	施設長
平成28年度 兵庫県知的障害者施設協会 施設長研修会	1／11	兵庫県福祉センター	施設長
民間社会福祉事業職員退職共済 制度運営及び事務に関する説明会	1／13	兵庫県民会館	事務員
平成28年度 社会福祉法人理事・評議員研修	2／3	兵庫県民会館	施設長

8. 支援会議

構成人員：理事長、施設長、サービス管理責任者、支援員21名、看護師2名、栄養士1名

毎月2～3回開催し、年間22回開催した。

9. その他の事業報告

（1）自治会活動

毎週日曜日の午後に実施。日常生活の諸問題を中心に、利用者が主体となって話し合いを行う。28年度は40回実施した。生活面での苦情・要望については、速やかな対応を心がけている。特に要望の多い給食に関しては、利用者全員のリクエストメニューについて年間を通して献立に取り入れることができた。また、選択メニューも毎週水曜日の昼食に実施を継続した。

(2) ボランティアの受け入れ

団体名	受入日	人数	内容
黒住教	平成 28 年 5 月 28 日	20 名	施設内外の清掃活動
子どもボランティア 広野小学校 2 名 本庄小学校 2 名	平成 28 年 7 月 29 日	4 名	納涼大会模擬店看板作成
子どもボランティア 学園小学校 2 名 本庄小学校 2 名	平成 28 年 8 月 3 日	4 名	納涼大会の準備と 模擬店の担当
三田音頭会	平成 28 年 8 月 3 日	7 名	納涼大会に出演
本庄地区民生委員	平成 28 年 8 月 3 日	5 名	納涼大会にて 模擬店担当や利用者介助
地域住民	平成 28 年 8 月 3 日	2 名	納涼大会 浴衣の着付けや利用者介助
子どもボランティア 学園小学校 2 名	平成 28 年 8 月 19 日	2 名	外出介助 (めんたいパーク)
子どもボランティア 本庄小学校 3 名 学園小学校 2 名 広野小学校 2 名	平成 28 年 8 月 23 日	7 名	アーチにてパン作り
BMX	平成 28 年 11 月 1 日	20 名	荘楽祭にて出演
吉川太鼓	平成 28 年 11 月 1 日	8 名	荘楽祭にて出演
フラワーアレンジメント	平成 28 年 11 月 1 日	3 名	荘楽祭にて出演
地域住民	平成 28 年 11 月 1 日	2 名	荘楽祭利用者介助
一般ボランティア	平成 28 年 11 月 1 日	5 名	荘楽祭コーナー担当
本庄婦人会	平成 28 年 12 月 10 日	8 名	クリスマス会の出し物

(3) 施設実習生受け入れ

湊川短期大学 2 名 平成 29 年 2 月 9 日 ~ 2 月 22 日 (10 日間)
 2 名 平成 29 年 2 月 23 日 ~ 3 月 8 日 (10 日間)
 2 名 平成 29 年 3 月 17 日 ~ 3 月 31 日 (10 日間)

(4) 動作法

活動日数：1回／月

受講人数：1回に2～3名

場 所：ねくすと

(5) 地域貢献活動

○「まごの手本庄」活動参加報告

月 日	時 間	依 賴 内 容	ボランティア活動
平成 28 年 6 月 30 日	9 : 25 ~ 11 : 25	受診・買物	介助者
平成 28 年 10 月 14 日	10 : 00 ~ 12 : 00	受診	介助者
平成 28 年 11 月 11 日	9 : 00 ~ 11 : 00	受診・買物	介助者
平成 28 年 12 月 6 日	9 : 00 ~ 11 : 00	受診・買物	介助者
平成 28 年 12 月 20 日	9 : 00 ~ 11 : 00	受診	運転手
平成 29 年 2 月 7 日	11 : 00 ~ 12 : 00	病院への送り	運転手
平成 29 年 3 月 21 日	11 : 00 ~ 12 : 00	病院への送り	運転手

○高齢者サロンへの送迎

月 日	時 間	場 所	送迎人数
平成 28 年 5 月 24 日	9 : 15 ~ 9 : 45	各自宅→JA ふれあい館	7 名
	14 : 30 ~ 15 : 00	JA ふれあい館→各自宅	
平成 28 年 12 月 20 日	9 : 15 ~ 9 : 45	各自宅→JA ふれあい館	7 名
	14 : 30 ~ 15 : 00	JA ふれあい館→各自宅	

○地域まつりへの参加

月 日	まつり	場 所	活動内容
平成 28 年 7 月 30 日	本庄まつり	本庄小学校	テント張り 職員 2 名 バザー出店 職員 3 名 利用者 2 名 出演高校生送迎 職員 2 名
平成 28 年 8 月 20 日	広野まつり	広野小学校	テント張り 職員 2 名 バザー出店 職員 5 名 利用者 2 名
平成 28 年 10 月 15 日	有馬富士フェスタ	有馬富士公園	バザー出店 職員 2 名 利用者 1 名

○長坂中学校 緑化ボランティア 平成 28 年 6 月 12 日 職員 2 名

○利用者の動態

【退所】平成 29 年 2 月 20 日 M. M [死亡] 腎不全

【 光耀会クラブ 】

総 括

平成28年度は、職員配置等組織的には大きな変更はなく、利用者についても異動はなかった。ホームの新設も現状維持の状況であり、ホーム数は8ヶ所、居住者は29名となっている。各ホームそれぞれに世話人の配置状況は異なるが、夜間支援員等の配置体制を基本に考えている。また、食事に関しては一部調理の手伝いもしてもらいながら、より家庭的な料理を提供できるよう日々奮闘している。

生活面では、余暇支援の充実を目指してきましたが、ホームヘルプを利用した外出機会の提供に向けて、利用者個々の移動支援の申請とヘルパーの充足に向けての資格取得支援の取り組みも始めている。

継続課題

- ・少人数による家庭的な雰囲気と食事提供等の特色は維持しながら、サービス管理責任者と世話人の連携の基、利用者の健康面、建物のメンテナンス、消防設備の取付け等も実施していく。

その他の展開

- ・余暇のヘルプ利用を促進し、生活の充足度向上を図る。
- ・一人暮らし支援に向けて、地域定着支援事業と連携した地域生活支援の新たなサービスの検討。

【就労継続支援B型事業所スクラム】

総 括

自動車関連の作業については安定した受注が続いています。作業の種類も多く、何種類もの作業が入荷するため変化もあり、それぞれの利用者が出来る作業の種類も増えてきて、活気や意欲が向上してきたように感じます。

支援学校の実習生も積極的に受け入れ、多くの方にスクラムでの実習を経験して頂きました。豊富な作業の種類や作業量に保護者や学校の先生方からも高い評価をして頂いています。

工房アーチのクッキー・マドレーヌ等も売れ行き好調で、問い合わせもあり、各団体などからの注文も絶えない状態が続いています。ギフト物などとしても好評を頂いており、安心安全でおいしい製菓作りが認められてきた結果であると思います。

製パンについても注文が増えており生産が追いつかないような状況です。継続的にアーチで利用者が作業できるような体制も整えており、さらに工賃を上げるよう努めています。また飲食店営業の許可も受けているので、今まで以上に幅の広い競争力のある商品、食品作りも提供していきたい。作業工賃を向上させていくのはもちろんのことですが、全ての利用者が安全で安心して通う事ができる活気のある事業所になるよう、職員全員で取り組んでいきたいと思います。

また、農園作業として野菜作りや椎茸栽培も試験的に行ってますが、非常に良質な椎茸が収穫できているので、今後も更に本格的に栽培、販売していきたいと考えています。また、アーチでの製菓などの材料としてスクラムの畑で栽培した野菜類を使った商品作りにも試行錯誤しています。

1. 作業内容

- ・公園清掃・・・・・・除草、ごみの収集、トイレ掃除等
(小野公園・岡の谷公園)
- ・ハイレックス・・・・・・自動車部品の組み立て作業
- ・オカパック・・・・・・緩衝材の袋詰め作業
- ・ワークチャレンジ・・・資源ごみの回収
- ・製菓・・・・・・・・クッキー、マドレーヌ、パン等
- ・木工

2. 製菓の販売場所

- ・三田市役所 キラリ
- ・関西学院大学 三田キャンパス内 (関学生協三田物販店)
- ・バザー 主に三田市内の各種イベント
- ・光耀会の各事業所
- ・注文生産・販売 (各団体・地域の学校行事)

3. 実習生の受け入れ

上野ヶ原特別支援学校

6月20日～6月24日 (5日間) 男子1名

のじぎく特別支援学校

10月3日～10月7日 (5日間) 男子1名

神戸特別支援学校

10月24日～10月28日 (5日間) 女子1名

4. 教育実習生の受け入れ

湊川短期大学

2月9日～2月17日 (8日間) 1名

3月6日～3月17日 (10日間) 2名

3月18日～3月31日 (10日間) 2名

5. 就労支援事業収入

① 受託事業収入

公園清掃	250,000円
オカパック	30,750円
自動車部品	2,622,838円

古紙回収 265, 000円

② 自製事業収入

工房アーチ 1, 788, 551円
農業収入 54, 330円

6. その他

行事の実施

4月29日 スマイルピック
11月17日 日帰り旅行 行先：鳴門渦潮観光
12月22日 クリスマス会・忘年会 於：寿侍路
1月13日 新年会・成人を祝う会

【相談支援事業所「ねくすと」】

総 括

平成 23 年に一般相談支援（地域移行・地域定着支援）、平成 24 に障害児相談支援、特定相談支援の指定を受け、障害児・者およびその家族等からの相談に応じ、それぞれが希望する生活を実現できるよう支援した。対象とする利用者は幼児から高齢の障害児・者で、特性や暮らしている環境や抱えている課題は多様である。それぞれのニーズに幅広く対応できるよう関係機関と連携を図り対応した。

相談は土日など休日、時間帯を問わず 24 時間対応できるよう努めた。特にひとり暮らしの利用者からは 18 時以降や休日の相談が多く、さまざまな不安や病状の悪化を訴えることが多い。また日中は仕事もしくは通所事業所へ通っているため、面談や相談できる時間帯が夜間や休日に限られることも理由としてあげられる。今後も利用者からのあらゆる相談に丁寧かつ迅速に対応できるよう努め、地域で安心し楽しみをもって暮らせるよう支援していく。

1. 障害児相談支援・特定相談支援

障害児・者が適切に福祉サービスや地域の社会資源を利用し、利用者本人の希望に沿った生活ができる目的を目的にサービス等利用計画を作成している。そして定期的もしくは利用者から依頼により随時モニタリングや個別支援会議をおこない、利用者や関係機関とともに考え支援した。現在、対象としている児童は2歳から18歳まで、成人は18歳から88歳までであり、65歳になる利用者については介護保険への移行、介護保険と障害福祉サービスを併用するための支援も行った。

以下は28年度の実績および相談形態である。利用者数については、現在福祉サービスを利用している数であり、過去に福祉サービスを利用していたが、就職により契約終了した者や福祉サービスを利用しなくなった者は含まれていない。しかしサービスを利用していない利用者こそ支援のニーズは高く、現在も引き続き対応している。

(1) 利用者数（障害種別ごと）

平成29年3月31日現在

	身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	難病	計
障害児	17	63	1	12	0	93
障害者	29	161	21	0	2	213
計	44	199	16	12	2	306

(2) サービス利用計画作成、モニタリング報告書 作成数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
障害児	17	21	11	17	8	9	13	21	12	12	14	15	170
障害者	42	21	49	38	37	34	30	32	36	36	37	48	440
計	59	42	60	55	45	43	43	53	48	48	51	63	610

(3) 相談形態

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	44	42	42	34	45	56	45	66	43	42	56	75	590
来所	8	8	11	17	17	27	14	15	13	17	16	10	173
同行	1	1	2	6	5	0	2	7	7	8	3	5	47
会議	個別	12	3	3	5	6	4	11	7	4	5	5	73
	運営	2	2	2	5	5	6	2	4	3	4	6	46
計	67	56	60	67	78	92	78	97	71	75	84	104	929

(4) 開設時間外の相談対応

利用者および家族からの相談は18時以降、土日祝日も多く、理由として平日日中は就業もしくは通所事業所へ通っているため、また休日は相談できる場所・支援者が限られることがあげられる。さらにひとり暮らしの利用者からは不安や病状悪化による相談が主であり、開設時間外・土日祝日の相談ニーズは高い。直近6ヶ月間の時間外（18時～翌9時）、土日祝日の相談実績は以下のとおりである。

相談形態		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	計
面談	平日時間外	4	7	8	5	4	14	11	49
	土日祝	14	6	9	15	22	14	17	83
電話	平日時間外	16	30	21	23	21	33	24	152
	土日祝	22	21	10	19	21	15	22	108
メール	時間外	26	27	28	26	27	41	29	178
計		82	91	76	88	95	117	103	570

2. 一般相談支援（地域定着支援）

地域でひとり暮らしの障害者、もしくは親と同居しているが親が高齢で対応が難しい障害者に対し、24時間電話連絡が取れる体制を確保し、緊急時等に対応した。緊急時の主な内容として、体調不良による病院への搬送、入退院にかかる支援、職場との関係調整、調子悪化時の対応、本人および近隣住民、関係機関からの依頼によりトラブルの仲介、またトラブルを防ぐため事前に応じた。日頃から利用者および関係機関への訪問や電話やメールで連絡を取り合い、生活の様子や体調を把握し、様子に変化のきざしに早めに対応することにより体調・調子の悪化防止に努めた。今後も利用者が地域で安心して暮らし続けられるよう支援する。

(1) 利用者数（障害種別ごと）

平成29年3月31日現在

	身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	難病	合計（名）
障害者	1	1	2	0	1	5

(2) 緊急時対応状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
緊急時対応	1	1	0	0	5	2	3	4	3	6	2	11	38回

※但し、「緊急時対応」は「本人もしくは第三者の依頼により急遽対応」した場合のみ算定。

緊急時に備えた事前対応等は回数に含まれない。

3. 研修

今年度は2名の相談員が加わり、研修参加の機会が増えた。障害福祉サービスから介護保険サービスへ移行する障害者に対して切れ目のない支援を行う観点から、相談支援専門員と介護支援専門員の連携推進等を目的とした「相談支援を“つなぐ”研修会」、権利擁護や虐待防止など幅広い相談に対応できるよう自己研鑽とネットワークの構築に努めた。

研修名	期日	参加職員	場所
第1回小児在宅医療講習会	9/25	1名	兵庫県医師会館
就労支援フォーラム NIPPON	12/3~4	1名	ベルサール新宿グランド
権利擁護とエンパワメント abc	1/14	2名	三田市総合保健福祉センター
「相談支援を“つなぐ”研修会」 (触法障害者支援)	1/19	1名	西宮市勤労会館
「相談支援を“つなぐ”研修会」 (高次脳機能障害)	2/13	1名	神戸市勤労会館
相談支援従事者現任研修	2/8~10	1名	兵庫県福祉のまちづくり研究所
「相談支援を“つなぐ”研修会」 (地域移行・地域定着)	2/15	1名	伊丹市立文化会館
障害のあるきょうだい支援について	2/17	1名	三田市総合保健福祉センター
阪神北圏域相談支援フォローアップ研修	3/10	2名	阪神北県民局
障害者虐待対応力向上研修	3/18	1名	兵庫県のじぎく会館

4. 会議・各種連絡会

(1) 三田市相談支援事業所連絡会（月1回、第3水曜日、年12回出席）

参加者：三田市内の委託・特定相談支援事業所、就業支援センター、障害福祉課参加

場所：三田市総合保健福祉センター

内容：地域の課題抽出、ケース検討、情報交換など

相談支援専門員と介護支援専門員との交流会参加（2/17）

(2) 三田こどもネット（2か月1回 年5回出席）

参加者：三田市内の児童発達支援、放課後等デイサービス事業所、子ども発達支援センター・障害福祉課、子ども支援課、健康増進課、教育委員会、相談支援事業所

場所：市内各事業所

内容：各事業所見学、地域の課題抽出、情報共有

(3) 三田市地域移行連絡会（3/13）

参加者：三田市精神障害者生活支援センター、市内精神科病院、精神科クリニック、地域包括支援センター、障害者生活支援センター、障害者入所施設、障害福祉課、宝塚健康福

祉事務所、一般相談支援事業所（地域移行・地域定着）、ピアソーターなど
場 所：三田市役所
内 容：病院・入所施設から地域移行に向けての意見交換、事例検討など

（4）三田市自立支援協議会くらし部会（12／12、2／21）

参加者：部会長、居宅介護事業所1名、当事者1名、相談支援専門員1名、三田市社会福祉協議会地域支援担当1名、オブザーバー
場 所：三田市総合保健福祉センター
内 容：福祉現場における人材育成について

（5）三木市自立支援協議会相談部会（7／20、12／5）

参加者：三木市利用者担当の相談支援事業所、三木市基幹相談支援センター、障害福祉課
場 所：三木市役所
内 容：ケース検討、情報共有、介護保険制度勉強会

（6）三木市自立支援協議会全体会（2／20）

参加者：三木市基幹相談支援センター、障害福祉課、福祉サービス事業所、相談支援事業所のじぎく特別支援学校 等

5. その他の事業

（1）障害支援区分認定調査

以下の市町から障害者支援区分認定調査の委託を受け、調査を実施した。

・大阪市 3名 　・南淡路市 3名 　・宮崎市 1名 　・大津市 1名

計 8名

【ねくすと】

総 括

「ねくすと」では障害をもつ方の地域生活を支援することを目的に日中一時支援事業、福祉有償運送、ホームヘルプ事業を行なっている。

日中一時支援では、創作活動やスキルアップを目指した内容により個々に応じた支援を行なってきた。平日の利用が少ないことは課題であるが、土・日曜日の利用は多いので、より一層の安全確保や職員配置を考えて支援を進めていきたい。

福祉有償運送については、ほぼ固定された利用で安全運行に十分配慮して実施してきた。

ホームヘルプ事業では、家事援助、身体介護の利用時間はやや減少となったが、移動支援、行動援護、重度訪問介護が増えている。また、光耀会クラブ居住者のヘルプ利用の拡充にも取り組んでいる。今後も継続して利用者、家族、ヘルパーとの連携をとり合い、より良いサービスを提供していきたい。

1. 主要行事

行 事 名	実施日	場 所	備 考
クリスマス会	12月24日	ねくすと	
節分	2月4日	ねくすと	

2. 利用状況

(1) 日中一時支援事業

延日数 1,790 日

実人数 23名

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(日)
154	166	146	166	146	148	163	146	145	136	128	146	1,790

(2) 福祉有償運送

延回数 1,285 回

実人数 50名

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計(回)
120	136	105	134	121	82	115	100	119	80	78	95	1,285

(3) ホームヘルプ事業 延時間数 1873.5 時間 実人数 27 名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
移動支援 (身体伴わない)	9.0	14.5	11.0	13.5	15.5	7.0	15.5
移動支援 (身体伴う)	21.5	23.0	13.5	24.5	29.0	24.0	17.5
身体介護	22.5	26.5	30.5	20.0	16.5	30.5	24.5
家事援助	23.0	26.5	37.0	24.0	28.0	21.0	27.0
行動援護	17.5	24.0	16.0	15.0	12.0	15.0	22.0
通院介助	9.0	5.0	8.5	4.5	0.0	0.0	3.5
重度訪問介護	35.0	35.5	25.5	36.0	40.5	36.5	28.0
計 (H)	137.5	158.5	158.0	137.5	141.5	134.0	138.0

	11月	12月	1月	2月	3月	計 (H)
移動支援 (身体伴わない)	24.5	12.5	4.5	13.0	22.0	170.5
移動支援 (身体伴う)	19.0	30.5	17.0	30.0	33.5	297.0
身体介護	23.5	30.0	24.0	27.0	22.0	297.5
家事援助	24.0	23.5	31.0	27.0	30.5	313.5
行動援護	19.5	18.0	27.5	19.5	23.5	227.5
通院介助	4.5	10.5	8.0	7.5	3.0	59.5
重度訪問介護	35.0	30.5	54.5	69.5	67.5	508.0
計 (H)	150.0	155.5	166.5	193.5	202.0	1,873.5

3. 会議

(1) ケース会議

出席者 支援員 (随時開催)

内 容： 利用者個々の支援、行事計画について

(2) ヘルパー会議

出席者 サービス提供責任者、登録ヘルパー (随時開催)

内 容： ホームヘルプ利用者個々の個別支援計画に沿った支援内容の見直しとヘルパー間の意見交換

【かがやきさんだ】

総 括

事業の開始から 5 年が経過した。現在では、三田市内でも児童発達支援事業所及び放課後デイサービス事業所も増え、利用者も事業所を選び利用されている。そのような中で、以前より課題であった、利用者から選んで利用していただける事業所としてどのような特色のある支援を提供していくのか、職員の意識や組織改革も必要であると感じている。

年度末でのサービス管理責任者、支援員の退職があり、東山荘からの応援や異動により、不足のない人員配置はおこなっている。また、これまで管理者は他の事業所と兼務しているが、常駐の管理者を配置し、職員には研修参加による知識の向上や法人への帰属意識を高め、支援内容についての見直しが必要であると感じている。どちらの事業においても、障害の特質をしっかりと理解し、ご家族とのコミュニケーションをはかりながら、ニーズをくみ取り、個別支援計画書に基づいた支援を実施するという基本を再度見直していく必要がある。個々の支援を充実するため、ゆとりのある受け入れを行いながら、事業運営を行っていきたい。

1. 主要行事

行 事 名	実施日	場 所	備 考
運動会	平成 28 年 6 月 19 日	ふれれあいと創造の里	保護者参加
花火大会	平成 28 年 8 月 21 日	敷地内	
お楽しみ外出	平成 28 年 9 月 30 日	三木フォースランドパーク	
クリスマス会	平成 28 年 12 月 20 日	かがやきさんだ	
お楽しみ外出	平成 29 年 3 月 10 日	須磨水族館	

2. 利用状況

(1) 児童発達支援事業

延日数 344 日 (平成 27 年度 489 日)

実人数 13 名 (平成 27 年度 13 人)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計 (日)
31	21	27	38	29	20	28	26	30	32	25	36	344

(2) 放課後デイサービス

延日数 3,873 日 (平成 27 年度 3,787 日)

実人数 69 名 (平成 27 年度 72 名)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計 (日)
306	322	321	353	339	303	310	313	325	325	329	327	3, 873

3. 研修

研 修 名	期 日	場 所	参加者
全国児童発達支援 施設運営協議会	11 月 17 日 ～18 日	ホテルグランヴィア 広島	支援員
平成 28 年度地域支援セミナー	11 月 9 日～10 日	新横浜国際ホテル	サービス管理責任者
療育研修会 感覚統合実践編	2 月 25 日～26 日	兵庫県立のじぎく会館	保育士

4. 会議

ケース会議

参加者： 管理者 サービス管理責任者 保育士 支援員

開催日： 隨時